

平成 24 年 2 月 27 日

衆議院予算委員会速記録 (議事速報)

◇この議事速報は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。

◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。

◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○中井委員長 次に、橘慶一郎君。

○橘(慶)委員 きょうは、参考人の皆様方、本当にありがとうございます。

万葉集を詠んで質問するということにしているものから、おつき合いをいただきたいというわけがあります。

犬飼教授から、竹林に雪の例えということでお話がありました。メモは結構かと思えますけれども。それで、きょうは、そろそろふるさとの方も梅が咲いたということで、残雪の中の梅の歌を詠んで始めさせていただきます。万葉集巻五、八百四十九番。

残りたる雪に交れる梅の花早くな散りそ雪は消ぬとも

雪は消えても梅はすぐに散らないでほしい、こういう歌でございました。では、よろしくお願いたします。(拍手)

それで、早速、犬飼教授、お願いいたします。先ほどお話を聞いておりました、日本企業は非常に元気である、底がたい、そして、海外への事業投資をやってもっと伸びていかなきゃいけないんだ、こういうお話をいただきました。

今、国内総生産、GDPから、そういう経常収支の所得収支なども考えて、国民総所得、GNI、そういった形でやはり日本の国富というものも見ていかなきゃいけない、こういう議論もあるわけでありませう。

ただ、海外にいろいろなグローバル化する企業が出ていきました、いろいろな事業をし、収益を上げてきた場合に、それをどう国内の国民の皆さんの豊かさに還元していけるかという問題があるように思うわけがあります。ここがなかなか、企業の中だけでおさまるんじゃない、それが何か国全体に、言ってみれば豊かさを潤していけるような、そんな形になれば幸いかと思うわけでありませう。先生にお考えがあればお聞かせをいただきたいと思えます。

○犬飼参考人 御質問、まことにありがとうございます。

国民の豊かさをどういうふうに日本の中に還元をしていくのかという御質問と思えますが、基本的に、これから日本の企業が海外でオペレーションを強化、さらに活発化させるということになりませうと、現地で利益が上がってくる、その上がつてきた利益を、子会社であれば、通常は、そこでお金を置いておくのが一番いいのか、あるいは本社に送るのが一番いいのかということを考えなが

ら、やはり税金の安い方にお金が動くということがあるわけですね。そういう意味では、将来的な課題として、日本の企業の法人税を下げる方向というのが一つ重要な政策課題になるのではないかと、いうふうに思っております。

それと、全般論的に申し上げますと、やはりそういう果実を日本の国民が享受するための一番いいやり方は、日本の企業の株の価格が上がることはではないかというふうに思います。株の値段の上昇をもってリターンを得ることではないかと思えます。

以上です。

○橘(慶)委員 ありがとうございます。

まずは、順次お一人ずつお伺いをしていくんですけども、深尾教授は、今ほどお話の中で、国民の家計資産一千四百兆円、一千五百兆円ぐらいありますかね、その年齢別の構成のお話もあったわけですが、私は、これは前から自分なりに思うんですけども、国民がこれだけの家計資産がありながら、それで、言ってみれば、国債をファイナンスするわけですけども、ある意味で一千兆円近い国、地方のそういう債務をファイナンスしているとするれば、逆に言えば、そこへ投資をしていると思つたら、その利回りというのは、当然、長期国債とかあるいは地方債の利回りということになれば、どうしても限定されてしまう。もしそういうお金が、普通の経済学の教科書みたいに、銀行へ行つて、銀行からいわゆる事業をされるいろいろな企業の方へ回っていったら、そこで大いにいろいろな企業活動をしていただければ、多分も

平成 24 年 2 月 27 日

衆議院予算委員会速記録（議事速報）

つと利回りは上がるはずであろう。

そうすると、せっかくお金があるにもかかわらず、そこからいわゆる成長率ということでは上がっていない形になっているんじゃないか、こういういわゆるゆるいお金がある意味で使い方として寝ているような形になっているんじゃないかという心配をするわけです。そしてまた、金融機関も同じように、お金を預金で預かるんですけれども、貸出先がなかなかないということで債券の方へシフトしてくる、これもまた金融機関の本来の目ききとか産業を育てるといふ姿からは違うような気がするわけでありませう。

先生のこの辺のお考え、またこれをどうすれば、言ってみれば普通の国になっていけるのかということについてはお考えをお聞かせください。

○深尾参考人 今、金利そのものは低いわけですが、それでも、先ほど申し上げたように、物価が下がっているために売り上げが減ってしまいます、このために、お金を借りようと思っても返済負担が、売り上げが減っていく中で返済計画が厳しい、これが最大の要因だということふうに思います。

そのためには、一つはデフレからの脱却ということが要るわけですが、今、デフレから単純に脱却した場合に財政がもつのか、金利が上昇してしまうという問題がありまして、財政再建をしながらデフレからの脱却をしていかないとけないというところを追いつまれているというふうに思っております。

以上です。

○橘（慶）委員 それでは、次に加藤取締役さんですけれども、二つになりますけれども、一つは、きょうお配りいただいた資料の一番最後に「中央銀行前の放射線量」というのがついていて、先輩の議員さん方からもちよつと御趣旨を聞いてみてくれ、こういうお話がございました。

そしてもう一つは、先ほどお話がありました、日本の物づくりのよさを生かしてもっともうけようじゃないか、こういうお話でありました。いろいろな、スイスのお話あるいは家電製品、自動車の高級車の話もありましたが、先生、こういうことについて、今、日本のいろいろな物づくりがあります、どちらかというと素材に強いとか部品が強いとか、こういうことも言われちゃうわけですが、ストーリー性を持って、実際、そういう付加価値を高めて売っていく、こういうもの、こういう品物ということ、あるいはどんな技術と、いうことでお考えになっているのか、そこをもう少し敷衍いただければと思います。

○加藤参考人 資料の一番最後のところに、ちょっと奇妙なものを載せていて恐縮ですけれども、これは、去年の六月ぐらいから十一月にかけて、出張のたびに、中央銀行というところには金融市場があるところにありますので、海外に出張へ行きますと、日本の状況が、放射線が心配で東京への出張が怖いなどという人がやはり依然として残念ながらいるということ、こうやってはかかってみると大差はないんですよ、どうぞ日本に来てビジネスをしてくださいというつもりで、意識的にアピールするつもりで載せて、海外でもこういうふう

うに言っております。

それから、先ほどの、いかに売っていくかといったことで、確かに、素材とかいろいろ、まだまだ技術もいっぱいあるわけですし、ただ、一方で、アジアという世界的に見ても高成長の国が飛行機で数時間のところにあるということ、中国は、バブル的な面もあるものの、そこに大きな市場がありますので、その消費者にも、いかに彼らを魅了していくかという点では、欧米企業と同じようにはできないかもしれないけれども、日本なりの技術力、エコの技術力とか、例えば、今、日本のエコカーも、好きな人は中国で評価されるんですが、ただ、いま一つ人気が出ないのが、エコカーに乗ることがおしやれだ、格好いいという認識がまだ向こうには余りないわけですね。そういうのもっとアピールしていくということも必要だろうと思えます。マーケティングも必要だろうと思えます。

また、数週間前、ロンドンのあるエコノミスト、非常に日本びいきな人でしたが、日本の中小企業レベルでもっと海外でマーケティングすれば販路が開けるのではないかと。いい技術があるのに、しかも、今インターネットの時代なので、何かきつかけがあれば海外から幾らでも注文がとれそうなの、いい商品がいっぱいあるのに、それがうまくできていないようだという点では、いろいろ何かそこをアドバイスしていくような人たちがいて、うまく連携がとれていけば、まだまだチャンスは広がっていくのではないかな。決して悲観はする必要はないと思うんですが、やはり何かきつかけ

平成24年2月27日

衆議院予算委員会速記録（議事速報）

が要るなど。あと、同じようなことを繰り返しているというアジアの企業との価格競争になってしまうので、そういう意味では、中小企業もいろいろチャンスはあるのではないかと。ドイツあたりは、かなり中小企業レベルでもそういったマーケティングをやっているというように聞きましたけれども、

○橘（慶）委員 続きまして、国分参考人にお伺いいたします。

先ほどお話を聞きますと、金属加工業をずっと営んでおられたということで、お見受けしても、かなり長い間、お仕事に多分携わられてきたと思うんですね。

きょうのテーマは円高、デフレという経済関係の最近の流れということでありますが、ずっと実際こういう業態を営まれてこられて、今のこの現状における御商売といえますか、お仕事をしていますか、まずちょっと歴史的に見ていただいても、今どういことが特に業態の環境として厳しいのか、この辺をお話いただければと思います。

○国分参考人 加工業ですから、材料の不安定さ、これは私のところもそうなんですけれども、しんちゅうだとか銅関係の材料を使っていますけれども、平均して六百円前後で推移していたのが千二百円に上がって、そして今、ちょっと下がって九百五十円くらいになっていますけれども、そのくらい。ですから、材料の高低で不安点がある。お客さんとの関係で、材料が上がったからとは言えないのね。そんな高い材料を使うからだ、こういう話になりますから。

だから、そういう問題で、やはり仕入れを安定化していくというのが、今、私どもでは非常に大事な部分だというふうに思います。

○橘（慶）委員 そんな意味では、これは、為替の安定であり、世界の商品市況ということももちろんあるわけで、付加価値というか、そこに加工業で乗つけられるお金というのは当然限られるわけですから、やはり、物事、経済が安定していることは大事なことになるかと思えます。

そこで、もう一度戻ってまいりまして、深尾教授にお伺いいたしますが、日本銀行が、せんだって、例のアンダースタンディングからターゲットということに言葉をかえまして十兆円ばかり緩和、要は、一%をめどということにされて、十兆円緩和ということ、物価の上昇率のめど、そしてまた一段の金融緩和ということをいたしましたして、円がするするっと少し戻しまして、きょう、お昼、見てまいりましたら、八十一円台、株価の方も九千七百円台ということで、一息ついたような形になっていくわけです。

なかなか先行きというのは見通せないわけですが、今回非常にインパクトがあった理由ということと、これからの必要ないわゆる金融財政政策をどのようにお考えになられているか、先生の御見解をお願いいたします。

○深尾参考人 今回、円安方向へのインパクトがあった理由としては、一つは、量的緩和を打ち出したことといえますが、物価の見通しを打ち出したということもあり、それ以上に大きかったのは、やはり国際収支の悪化だろうと思えます。経

常収支が赤字になるかもしれないという、貿易収支は赤字になったわけですが、これが一つ大きな理由だろうというふうに思っております。

ゴールの方は、いつ達成できるか全くめどがついていないゴールでございますので、そんなに大きな効果はなかったのではないかと。量の方は、金額が大きかったので、それなりにマーケットに、特に外国の投資家は量的緩和が好きな人が多いので、ギア効果のきく投資家が多いということ、これできいたんだというふうに思っておりますが、長期的にそれが効果があるかどうかについては疑問に思っております。

金融財政政策全般ということからいいますと、私は、日銀が、今、当座預金に利息をつけていますが、これは要らない、ゼロにしたいのではないかと。そうすると、多少金利は下がるといえること

です。

もう一つは、財政の再建をしながら経済を悪化させないでやっていく。そのためには、増税をしながら、しかし、増税を段階的に、間接税の段階的な増税を行って、そのうちの半分ぐらいは使って刺激に回す。

もう一つは、無駄な部分をどんどんカットしていくのはもうやむを得ないだろうと思えます。私は、所得の高い人の年金については、もう年齢制限を設けずカットしていいのではないかと。そのかわり、退職したり、所得がなくなった場合は少し上積みしてあげるぐらいの、ネットで見ればそうなんだけれども、そんなに損した感じはしないような形でのカットというか、こういった所得制限

平成 24 年 2 月 27 日

衆議院予算委員会速記録（議事速報）

を入れていってはどうか。

年金全般について、年齢制限を設けず、基礎年金も報酬比例部分もいずれも、所得が高い人には払わない。所得がなくなつた場合には払ってあげるけれども、そのときには、後ろ倒しで払っている分は少しだけ色をつけてあげるといったやり方によるカットというのがあり得るかなというふう

に思っております。

○橘（慶）委員 済みませんでした、ターゲットではなくてゴールでした。失礼いたしました。

そして、国際収支ということも影響しての大きなダイナミックな相場の動きであつたということ、今教えていただいて、やはり、そういう円高、デフレというものが悪さをしないようにまた私どもも政策的には努力していかなきゃいけないと、つくづく感じさせていただきました。

ちょうど時間となりましたので、これで終わらせていただきます。

○中井委員長 これにて橘君の質疑は終了いたしました。